

四国管内の自転車活用推進に係る取組

国土交通省 四国地方整備局 道路部 交通対策課

1. はじめに

自転車関連の施策については、1960年の道路交通法の施行により自転車は軽車両に位置付けられ、その後乗用車を中心とした自動車の急速な普及に伴う交通事故死者数の激増を受け、自転車の歩道通行を可能とする交通規制が導入され、自転車歩行者道の整備による自動車との分離を進めることで交通事故死者数の減少を図ることとしました。

その後、歩行者との交錯事故増加を受けて、自転車の歩道通行が見直され、あらためて自転車は軽車両であることを原則としてインフラ整備、通行ルールの徹底がされてきました。

このような中、地球環境問題、災害時における機動的移動手段としての有効性、健康意識の高まり、交通混雑の緩和、地域活性化への活用等、自転車活用を推進するため、2017年5月に自転車活用推進法が施行、この法律に基づく国の自転車活用推進計画が2018年6月に閣議決定され、現在は、2021年5月に閣議決定された第2次自転車活用推進計画に基づく自転車社会構築に向けた取組を進めているところです。

しかしながらここ何年、新型コロナウイルス感染症が観光分野をはじめ社会全体に大きな影響を及ぼす中、インバウンドの需要回復を見据え、自転車を活用することで観光需要の拡大が有望視されています。

本稿では、現在の社会情勢を踏まえ、国内観光におけるサイクルツーリズムが地域経済に与える効果を高め、地域活性化を促進する観点から、より広域でサイクルツーリズムを展開するとともに、より多くの方にサイクリングに親しんでいただくことに寄与する自転車活用推進に係る一部の取組を紹介します。

2. 四国管内の自転車施策

(1) サイクリングアイランド四国 < 四国4県の取組 >

「サイクリングアイランド四国」とは、美しい自然景観や、四国遍路で育まれたおもてなしの文化など、

サイクリングに適した地域資源を活かし、四国全体でその魅力を広く発信することで、サイクリストを中心に国内外から誘客を図り、交流人口の拡大や観光振興につなげようとするものであり、「四国一周サイクリング」はその実現に向けた重要な取組のひとつで、サ

■自転車走行環境整備

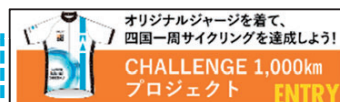
車道の路側に、5 km間隔で四国一周1,000 kmルートと目的地までの距離を明示する路面案内ピクトを整備
【2019年までに整備完了】



■チャレンジ1,000 kmプロジェクト

登録制により四国一周サイクリストを可視化し、完走証や記念メダルの交付によりサイクリストの達成感を高め、認知度を向上
(2017.11~)

エントリー数
4,172名
(うち完走者1,719名)
【R5.1時点】

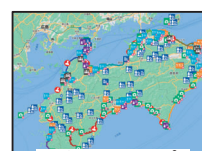


■おもてなしサポーター制度

四国一周サイクリストが“あると嬉しい”と思えるサービスを提供いただける飲食店、宿泊施設等を「おもてなしサポーター」として認定 (2018.10~)

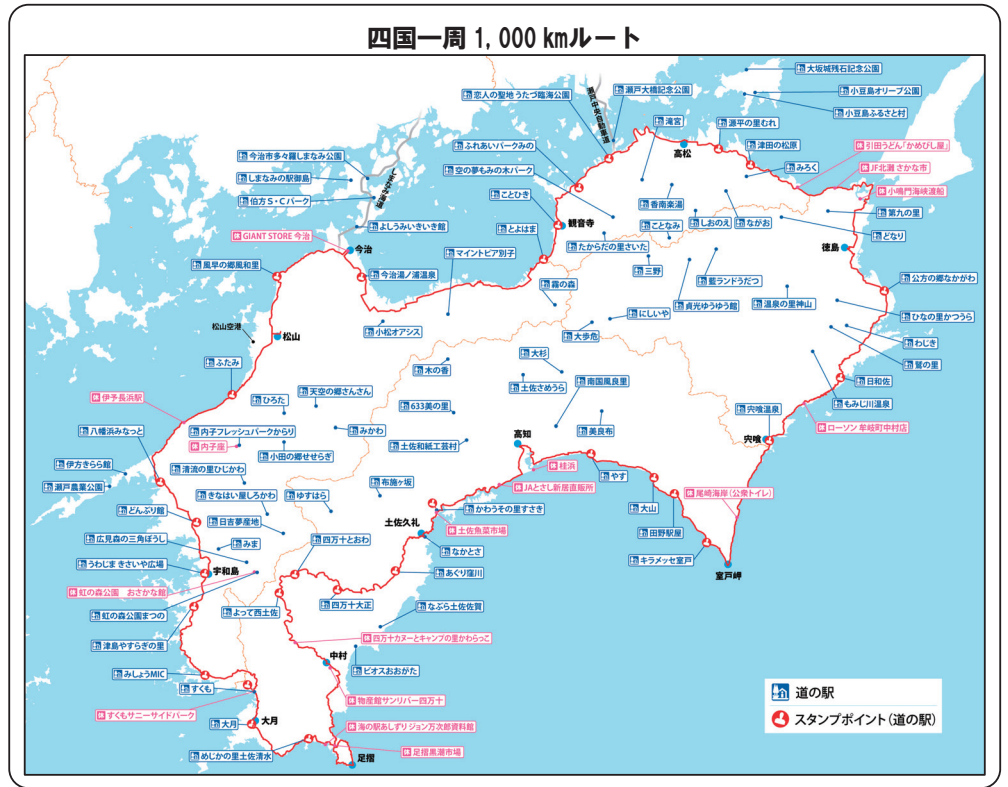


四国一周1,000kmルートマップ



おもてなしマップ

イクリングアイランド四国プロジェクトパートナーのプロサイクリスト監修のもと、実走調査等でのルート検証を踏まえ、安全性やサイクリスト目線に配慮した「四国一周1,000 kmルート」を設定し、快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備やサイクルツーリズム推進のための取組を展開しています。



(2) ナショナルサイクルルート『しまなみ海道サイクリングロード』 < 愛媛県の取組 >

2019年9月、日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングロードを「ナショナルサイクルルート」として指定する制度が創設され、同年11月、第1次ルートとして指定された『しまなみ海道サイクリングロード』は、瀬戸内海の島々が織りなす絶景を望む、日本初の海峡を横断するサイクルルートで、快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備やサイクルツーリズム推進のための取組を展開しています。

しまなみ海道サイクリングロード

■概要

JR尾道駅(広島県)~サンライズ糸山(愛媛県) 延長:約 70km

■取組内容

【走行環境の整備】

【サイクルツーリズム推進のための取組】



車道の路側に推奨ルートを明示するブルーラインと路面標示を整備



サイクルオアシス



今治駅 (ゲートウェイ)



しまなみリニトレイン (JR 四国)



WAKKA (サイクリングサポート)

しまなみ海道サイクリングロード



(3) サイクリングしまなみ 2022 < 広島県・愛媛県の取組 >

日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングデスティネーション、しまなみ海道のロケーションを活かした国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ 2022」が2022年10月30日(日)に開催されました。「サイクリングしまなみ」は、参加者数もコースも最大スケールで開催される2年に一度のプレミアムな大会で、今回で4度目の開催となり、高速道路を規制して行うロングライドイベントに、46都道府県、33か国・地域から約6,400名が参加し、瀬戸内の島ならではの「おもてなし」を体感、瀬戸内しまなみ海道の魅力を堪能しながらサイクリングを満喫されました。



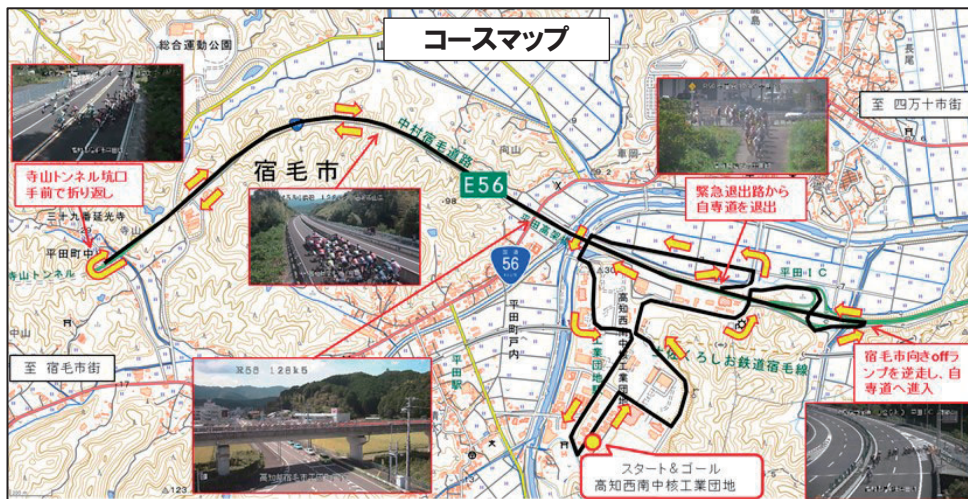
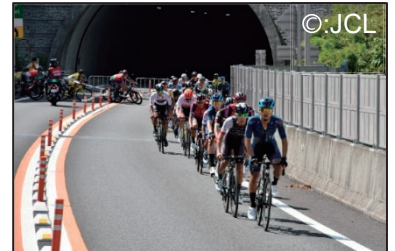
(4) ジャパンサイクルリーグ（略称：JCL）高知大会・高知県宿毛市ロードレース

ジャパンサイクルリーグ（略称：JCL）は、2021年に開幕した日本のプロサイクルロードレースリーグで、「自転車を通じた地方活性化促進」を合言葉に地域創生の実現に取り組んでいる組織です。

今回の高知大会では、プロ自転車ロードレースで「日本初」自動車専用道路（中村宿毛道路【四万十IC～宿毛和田IC】）をコースとして使用し開催されました。

大会当日は、沿道に駆けつけた多くの市民から鳴子や太鼓を鳴らして「頑張れ」と声援を送る場面もあり、鳴子での声援は新鮮だったと選手に喜んでいただきました。また、応援に訪れた市民もスピードの速さに興奮し、地域で盛り上がるイベントができたこと喜びの声が上がるなど、サイクリングが楽しいと多くの人を感じられるイベントとして大成功に大会が終了しました。

○レースタイトル	： 高知県宿毛市ロードレース
○開催日	： 令和4年9月25日（日）11時00分レース開始～14:00頃
○開催場所	： 宿毛市内特設公道ロードレースコース （12.5km（うち自専道本線上は約7.4km）×10周＝125km）
○参加チーム	： JCL加盟 9チーム 48名でスタート
○当日来場者数	： 約1,500名
○ツアー主催	： 一般社団法人ジャパンサイクルリーグ
○大会主催	： ジャパンサイクルリーグ高知大会実行委員会



(5) Setouchi Vélo（せとうち ぐえろ）協議会

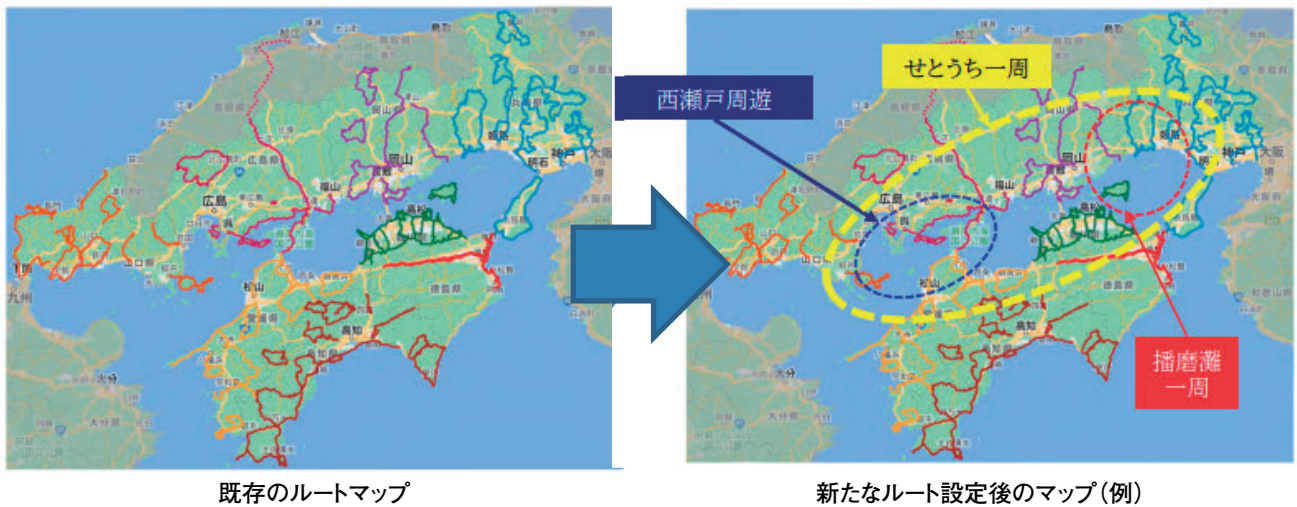
瀬戸内地域及びその周辺地域を、環境に配慮した、安全で快適な、世界にも認められる「サイクリングの推進エリア」に育てることにより、瀬戸内地域等のブランド価値の向上を図り、持続的な地域振興を実現することを目的として、しまなみ海道や淡路島一周（「アワイチ」）、四国一周1,000 kmルートなど、瀬戸内地域等に存するサイクリングルートネットワーク化し、サイクリングを通じて地域の魅力を国内外に発信していく「Setouchi Vélo 協議会」が2022年10月29日に発足しました。

参加組織は、地方公共団体（8県）、経済団体、DMO、整備局・運輸局（近畿・中国・四国）、本州四国連絡高速道路（株）の全20組織で、当日の設立総会では参加組織が愛媛県今治市内の会場で一堂に会しました。



① サイクリングルートのネットワーク化

瀬戸内地域等に存する多数のサイクリングルートを「Setouchi Vélo ルート」として登録し、地域全体のサイクリングの魅力を向上させるとともに、これらをつなぐ新たなルートを提案、設定することによりネットワーク化を図り、瀬戸内地域等をサイクリングで自在に周遊できるようにしていきます。



② サイクリングの推進エリア化

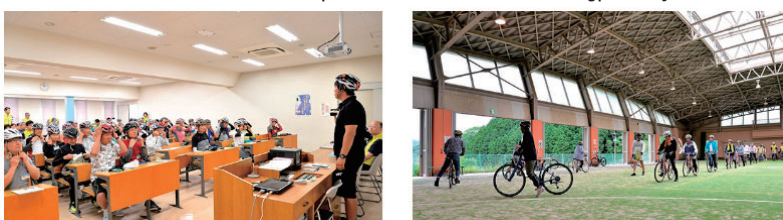
瀬戸内地域等を「日本屈指のサイクリングの推進エリア」として国内外にアピールできるように、歩行者・自転車・自動車等が互いに安全に道路を利用できる快適性の高い自転車文化の構築を目指し、プロサイクリスト、メディア関係者、行政関係者などの多様な参加者が、それぞれの視点で走行コースの案内表示や走行ライン、道路交通状況、休憩場所やトイレの有無などハード、ソフト両面から走行環境を確認するトライアルライドを実施するとともに、老若男女を問わず幅広い層がサイクリングを楽しめるよう、e-bikeの普及・促進を推進していきます。

▼トライアルライドの実施



▼e-bikeの普及促進

ノッてる！えひめ <https://www.notteru-ehime.jp/bosyuu>



e-bikeの体験乗車会

③ 国内外への情報発信

世界に誇るサイクリングルートをもつ瀬戸内地域等を国内外に向けて発信するため、マップ、ホームページの活用やメディア、DMO等との連携、新たな Setouchi Vélo ルートを PR するためのキャンペーンの実施など、各種活動を推進していきます。

i) マップ、ホームページ等による情報発信

Setouchi Vélo マップ、ホームページによるサイクリングルート等の情報発信を行うとともに、協議会の開催などを通じて活動内容等を広報しています。

◎ホームページURL : <https://setouchivelo.jp/>

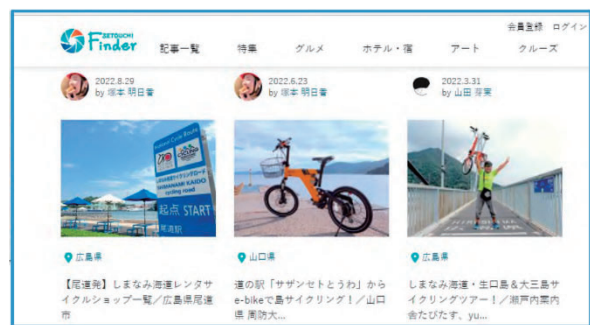


ii) メディア、サイクリング専門誌、情報誌、トライアルライド等による情報発信

メディア等の取材を通じた情報発信に加え、トライアルライドに参加するメディア関係者及び自治体等から、Setouchi Vélo ルート等の発信を行います。

iii) DMO等との連携

広域連携DMO等による国内外への情報発信を実施します。



せとうちDMOによる情報発信

3. おわりに

本稿ではサイクルツーリズムの推進に関連した主な取組を紹介しましたが、自転車事故のない安全で安心な社会の実現など、第2次自転車活用推進計画を推進していくうえで、多種多様な取組等を進めて自転車を活用することによる副次的効果を発現していくために、今後も道路管理者として、道路利用者が安全で快適に利用できる道路空間の確保に取組ながら、引き続き関係機関と連携して自転車活用を推進してまいります。